

# 平成 24 年度（社）日本地すべり学会東北支部第 28 回総会

## 議案書

開催場所： 東北学院大学土桶キャンパス 8号館押川記念ホール

開催日時： 平成 24 年 4 月 23 日(月) 13:00～13:50

### 総会次第

1. 開 会
2. 支部長挨拶
3. 議 事
  - 第一号議案 平成 23 年度事業報告
  - 第二号議案 平成 23 年度収支決算報告並びに会計監査報告
  - 第三号議案 平成 24 年度事業計画(案)
  - 第四号議案 平成 24 年度収支予算(案)
  - 第五号議案 平成 24・25 年度役員改選
5. 報告事項
6. その他
7. 閉会

## 第一号議案 平成 23 年度事業報告

### 1) 総会・意見交流会

7月15日、38名の参加をもと東北工業大学八木山キャンパス内の教室で開催した。昨年度の事業報告・決算、今年度の事業計画・予算を決議した。意見交流会は震災のため中止。

### 2) シンポジウム

総会后、同会場にてシンポジウムを開催。58名の参加をもとに、まず「東北地方の地すべりのルーツを科学する」と題して盛合先生の講演を頂いた。その後、千葉・梅村・檜垣の三氏から東北地方太平洋沖地震による土砂災害について報告があった。

### 3) 現地検討会

11月2日・3日、宮城県・荒砥沢地すべり周辺を対象として、「岩手・宮城内陸地震、その後の復旧と復興」をテーマに現地視察・討論会を実施。参加者28名。平成22年度にもコア観察会を実施しており、今回はその継続事業とした。またこの付近を栗原市では「ジオパーク」とする計画があり、今後東北支部としても積極的な支援に取り組むことを確認した。

### 4) 研究活動（地震地すべりプロジェクト）

本部に立ち上げた地震地すべりプロジェクト特別委員会(約100名参加)が約3年間行ってきた8分科会活動の成果を集約し、書籍「地震地すべり-地震地すべりプロジェクト特別委員会の総括編-」を今年3月に出版した(約200頁、¥4,200)。今後の「危険箇所評価」に活用できる書籍である。同委員会の活動において、東北支部所属の委員は主に岩手宮城内陸地震関連を担当した。

### 5) 東日本大震災関連の主な活動

#### ①東日本大震災・東北支部現地調査団の派遣

5月27～28日、福島県いわき市、白河市周辺の土砂災害被災地の現地調査を実施した。参加者9名。調査結果報告は学会誌に掲載済み。

#### ②東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会の活動

3月25日、土木学会、地盤工学会、日本地すべり学会、東北建設協会、日本コンクリート学会、日本建築学会及び日本都市計画学会の7学協会の東北支部が集まった学術合同調査委員会が発足した。

##### <東北支部学術合同調査委員会第一次報告会>

4月28日、仙台国際センターにおいて定員500名をオーバーする聴衆者が集まった。8部門からそれぞれ報告があった。

##### <東北支部学術合同調査委員会第二次報告会>

7月1日、定員500名をオーバーする聴衆者をもとに、仙台市内のウェスティンホテル仙台で開催された。テーマは「津波浸水被害とまちづくりの問題」、「造成宅地の問題」、「ガレキ処理の問題」。

##### <東北支部学術合同調査委員会第三次報告会>

9月2日(土)、ウェスティンホテル仙台2階(仙台市)にて「土地利用と町づくり」、「津波に対する多重防護」、「ガレキ処理」の3つのテーマについての報告が行われた。参加者約400名。

##### <東北支部学術合同調査委員会第四次報告会>

11月4日(金)、ウェスティンホテル仙台にて開催。テーマは「道路・鉄道の被害と復旧について」、「被災状況と復興計画について」。参加者約450名

### ③地盤工学会東北支部との合同活動

5月11日、地盤工学会東北支部との合同による「仙台市内の宅地災害に関する宅地災害対策技術専門委員会」が発足。構成メンバーは約20名程度した。仙台市内の盛土宅地の変状被害について共同で検討することになった。

#### <地盤工学会東北支部との共催シンポジウム>

9月30日（金）、13:00から東北学院大学押川記念ホールにて、「東日本大震災における仙台市の宅地被災を考える」シンポジウムを開催。宅地被災者、市職員、学会員等約250名参加。

### ④国交省河川技術開発の委託研究

国交省から学会本部が受託した河川技術開発・研究課題「2011年東北地方太平洋沖地震における斜面変動の類型化」により、東日本大震災の土砂災害の実態把握し、地震の危険度判定手法を模索する研究活動を実施した。調査範囲は被災5県にわたり、東北支部も管轄範囲の調査に協力した。

## 6) 広報活動

①ホームページの更新は、行事開催の都度行った。

②支部だより発行については予算面、作業量の面から中止した。今後、広報のあり方を検討する。

## 7) 運営委員会、幹事会、役員会

### ①運営委員会

平成24年3月16日 ㈱復建技術コンサルタント 会議室

### ②幹事会・役員会

●4月19日、9名出席のもとに㈱テクノ長谷内・会議室で開催した。審議内容は、①東北支部合同調査委員会への取り組み、②東日本大震災緊急調査団の派遣、③被災情報収集、③支部総会・シンポジウムなどについて話し合った。

●6月11日、三役・幹事4名出席のもとに、㈱テクノ長谷内・会議室で開催した。支部総会・報告会の日程・議事内容、東日本大震災学協会東北支部合同調査委員会等について審議した。

●9月17日（土）、㈱テクノ長谷・会議室にて、1) 現地検討会の時期・内容 2) 東日本大震災の斜面災害分布全体像の把握 3) 公益法人化申請による支部の活動・会計・幹事構成等の見直し等の会議を実施した。参加者12名。

●2月6日（月）、㈱復建技術コンサルタント・会議室にて3月開催の支部運営委員会の議題について会議を実施。参加者13名。

第二号議案 平成23年度収支決算報告

(収入の部)		(単位：円)			
科 目	コード	当年度予算	当年度決算	増減	備考
本部交付金	10	300,000	300,000	0	
助成金	11	300,000	300,000	0	
協賛金・寄付金	20	400,000	400,000	0	
支部協賛金	21	400,000	400,000	0	
事業収入	30	550,000	336,000	-214,000	
意見交流	31	0	0	0	
現地検討	32	450,000	336,000	-114,000	
講習会	33	100,000	0	-100,000	
雑収入	40	0	9,191	9,191	
利子	41	0	191	191	
その他	42	0	9,000	9,000	
当期収入合計		1,250,000	1,045,191	-204,809	
前期繰越収支差額		1,166,696	1,166,696	0	
収入合計		2,416,696	2,211,887	-204,809	

(支出の部)		(単位：円)			
科 目	コード	当年度予算	当年度決算	増減	備考
総会関係費	60	100,000	10,618	-89,382	
事業企画費	70	110,000	62,725	-47,275	
運営委員会	71	5,000	0	-5,000	
幹事会	72	5,000	4,340	-660	
役員会	73	5,000	0	-5,000	
部会	74	5,000	0	-5,000	
通常旅費・交通費	75	80,000	58,385	-21,615	
緊急調査費	76	5,000	0	-5,000	
資料	77	5,000	0	-5,000	
事業運営費	80	1,220,000	515,711	-704,289	
意見交流	81	0	0	0	
特別講演・報告会	82	20,000	0	-20,000	
現地検討会	84	450,000	315,711	-134,289	
支部だより	85	400,000	0	-400,000	
会勢活動	86	50,000	0	-50,000	
他学会共催行事	87	200,000	200,000	0	
講習会	88	100,000	0	-100,000	
研究委員会	90	30,000	0	-30,000	
地震地すべりP	91	30,000	0	-30,000	
管理費	100	380,000	321,539	-58,461	
ホームページ	101	100,000	30,928	-69,072	
通信運搬費	102	150,000	156,978	6,978	
事務費	103	50,000	53,633	3,633	
事務委託費	104	80,000	80,000	0	
予備費	110	100,000	0	-100,000	
当期支出合計		1,940,000	910,593	-1,029,407	
当期収支差額		-690,000	134,598	824,598	
次期繰越収支差額		476,696	1,301,294	824,598	

監査報告

平成23年度(社)日本地すべり学会東北支部の会計監査の結果、適性に会計処理されていると認めます。

平成24年4月18日付

会計監査

宮城県農林水産部森林整備課長 印  
秋田県建設交通部河川砂防課長 印

## 第三号議案 平成 24 年度事業計画(案)

例年の事業内容に加え、会勢拡大あるいは社会貢献のための活動を積極的に展開する。また学会支部の運営に若い世代の研究者・技術者の参加を推し進め、育成を図る。

### 1) 総会・意見交流会

本部総会(5/11)の前に開催する必要がある、支部総会を平成24年4月23日(月)13:00～、東北学院大学土桶キャンパス・押川記念ホールで開催予定。意見交流会は仙台国際ホテルで行う。

### 2) シンポジウム

総会終了後、同じ会場で開催する。東北学院大学と共催で「東日本大震災を振り返って新しい防災と減災を考える」をテーマとし、講演を宮城・桜垣・千葉の三氏で行う。

### 3) 現地検討会

輪番制(山形―秋田―福島―宮城―岩手―青森、これまで4巡目完了)を復活する(地元の対策技術の伝承も重要である)。他の学協会との共催も模索する。今年度は山形県内で開催する。日程は10月を予定。

### 4) 講習会

Gis Landslide 研究会、東北支部および東北学院大学と共催し、7月27日～28日に東北学院大学泉キャンパス・宮城研究室で開催する。

### 5) 社会貢献・会勢活動

- ① 緊急災害調査団の派遣(調査団長:東北支部長、団員:各県の担当者を中心に編成)
- ② 出前講座、研修への講師派遣(この制度の認知度が低いことから、広報を積極的に行う)
- ③ 栗原市のジオパーク構想において、ビューポイントの内容設定、インストラクターの育成等の面で支援を行う。

### 6) 東日本大震災関連の活動

東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会は、来年を目途に研究調査の成果を報告書としてまとめる方向としている。当支部でも成果を出せるよう準備する。

### 7) 他学協会との交流活動

各種行事を共催、後援などの形で他の学会・協会に働きかける。

### 8) 広報活動

- ① 支部だよりを中止し、支部のホームページで情報発信。あわせてコンテンツの充実を図る。
- ② メーリングリストが本部サンパーでも使用可能となるため、これを活用する。

### 9) 運営委員会、幹事会、役員会

- ① 運営委員会(予定:年度終了直前 1回)
- ② 幹事会(予定:総会開催前、現地検討会開催前、支部運営委員会開催前 計3回)
- ③ 役員会(予定:随時)

第四号議案 平成24年度収支予算(案)

(収入の部) (単位：円)

科 目	コード	当年度予算	前年度予算	増減	備考
本部交付金	10	0	300,000	-300,000	
助成金	11	0	300,000	-300,000	
協賛金・寄付金	20	400,000	400,000	0	
支部協賛金	21	400,000	400,000	0	
事業収入	30	780,000	550,000	230,000	
意見交流	31	180,000	0	180,000	
現地検討	32	600,000	450,000	150,000	
講習会	33	0	100,000	-100,000	
雑収入	40	0	0	0	
利子	41	0	0	0	
その他	42	0	0	0	
当期収入合計		1,180,000	1,250,000	-70,000	
前期繰越収支差額		1,301,294	1,166,696	134,598	
収入合計		2,481,294	2,416,696	64,598	

(支出の部) (単位：円)

科 目	コード	当年度予算	前年度予算	増減	備考
総会関係費	60	20,000	100,000	-80,000	
事業企画費	70	72,000	110,000	-38,000	
運営委員会	71	2,000	5,000	-3,000	
幹事会	72	6,000	5,000	1,000	
役員会	73	2,000	5,000	-3,000	
部会	74	2,000	5,000	-3,000	
通常旅費・交通費	75	50,000	80,000	-30,000	
緊急調査費	76	5,000	5,000	0	
資料	77	5,000	5,000	0	
事業運営費	80	892,000	1,220,000	-328,000	
意見交流	81	180,000	0	180,000	
シンポジウム	82	5,000	20,000	-15,000	
現地検討会	84	600,000	450,000	150,000	
支部だより	85	0	400,000	-400,000	
会勢活動	86	90,000	50,000	40,000	
他学会共催行事	87	10,000	200,000	-190,000	
講習会	88	7,000	100,000	-93,000	
研究委員会	90	0	30,000	-30,000	
管理費	100	193,000	380,000	-187,000	
ホームページ	101	33,000	100,000	-67,000	
通信運搬費	102	70,000	150,000	-80,000	
事務費	103	30,000	50,000	-20,000	
事務委託費	104	60,000	80,000	-20,000	
予備費	110	50,000	100,000	-50,000	
当期支出合計		1,227,000	1,940,000	-713,000	
当期収支差額		-47,000	-690,000	643,000	
次期繰越収支差額		1,254,294	476,696	777,598	